たちばな

第10号
2018年

患者さんと病院を結ぶ情報誌

©表紙・挿し絵／長久手絵手紙ボランティア「わたぼうし」

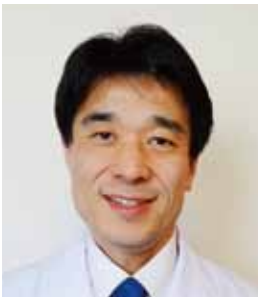
Contents

造血細胞移植センターの設置 …… 1
専門医に聞く …… 2
診療科、部署 Topics …… 3
診療科、部署 Pick up …… 5
新人奮闘記 …… 7
栄養部 …… 8
インフォメーション …… 9

愛知医科大学病院
〒480-1195 長久手市岩作雁又1番地1
TEL:0561-62-3311　FAX:0561-63-3208
http://www.aichi-med-u.ac.jp/

注目のNEWS

「オール愛知医科大学」で血液がんをなおす



造血細胞移植センター部長
血液内科部長
高見 昭良

造血細胞移植センターの新設

造血（幹）細胞移植は、抗がん剤や放射線治療ののち、血液の種となる造血幹細胞を輸血する治療法です。白血病や骨髄異形成症候群、骨髄腫、アミロイドーシス※、リンパ腫、再生不良性貧血などの患者さんが対象になります。2014年当院は最新の高機能無菌病室（写真）を設置し、より安全で効果的に造血幹細胞移植やがん化学療法を行えるようになりました。

※アミロイドーシス：アミロイドという蛋白が全身の臓器にたまって起こる病気

写真　高機能無菌室

写真　高機能無菌室は、がん化学療法や造血幹細胞移植後の感染症予防に有用です。

診療科が円滑に連携し、造血幹細胞移植の副作用に対応します

造血細胞移植は強い副作用が生じやすい治療法です。副作用を未然に防ぐ、あるいは適切に対処するには、全身くまなくみる診療姿勢と、全診療科・部門の連携が必要です。私たちは以前から、患者さんお一人おひとり丁寧に造血細胞移植を行っており、当院で造血細胞移植を受ける患者さんも増えています（図）。

患者さんの期待に応え、より安全で効果的に造血細胞移植を行うため、2017年1月造血細胞移植センターが設置されました。各診療科が連携して患者さんの治療に当る体制を強化することで、移植による副作用の軽減を目指しています。血液疾患に関わる診療科にとどまらず、臓器横断的・集学的診療を主眼とした造血細胞移植センターの設置は日本では珍しく、注目されています（2017年12月27日中日新聞一面にセンターの設置が取り上げられました）。

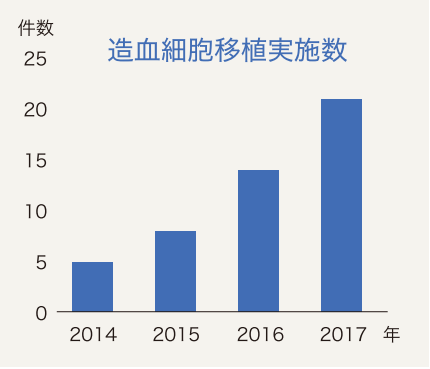


図　造血細胞移植実施数

図　当院の造血細胞移植実施数は増加しています。

国内外の造血細胞移植に関する情報が当院に集まります

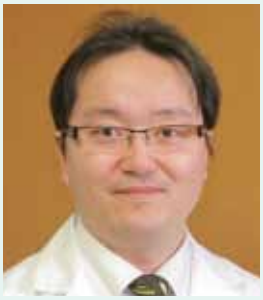
愛知医科大学には、国内で唯一造血細胞移植における国際協調や国内外の情報収集・発信などを目的に、造血細胞移植振興寄附講座が設置されています。同講座は、アジア太平洋血液骨髄移植学会の事務局と世界血液骨髄移植学会のアジア支局も兼ね、国内外の造血細胞移植に関する情報が集約されています。様々な疾患に対し、造血細胞移植が治療として適切かどうか、どの時期に、どのように移植を行うべきかなどの知見は、日々更新されています。私たちは、同講座と緊密に連携し、国内外の最新の情報に基づく最善の治療を提案・実践することができます。また、同時に、アミロイドーシス患者さんへの自家造血幹細胞移植にも積極的に取り組んでいます。アミロイドーシスは単独、または骨髄腫に合併して生じます。特に骨髄腫に合併する場合、骨髄腫と同様自家造血幹細胞移植も重要な治療選択肢になります。

私たちのミッションは、本学の特色と強みを最大限に活かし、血液疾患を治す・健康な社会生活を取り戻すことです。また、私立大学病院としての利点を活かし、自由な発想と研究的姿勢を堅持しながら、造血細胞移植診療をさらに発展させることが大切と考えています。

INTERVIEW

専門医に聞く

帯状疱疹（たいじょうほうしん）
―治療と予防の最新情報―



皮膚科部長
渡辺 大輔

帯状疱疹とは？

帯状疱疹とはどんな病気でしょう？帯状疱疹は水ぼうそうと同じ水痘・帯状疱疹ウイルスによって引き起こされる病気です。

子どものころにこのウイルスに感染すると、水ぼうそうを発症します。水ぼうそうが治った後、このウイルスは神経節（しんけいせつ）と呼ばれる神経の根元に潜みます。加齢や病気、免疫抑制（めんえきよくせい）剤の使用などにより体の免疫力が低下すると、神経節に潜んでいたウイルスが再び活動を開始することにより帯状疱疹が発症します。このように、帯状疱疹は水ぼうそうにかかったことのある人なら、誰でも発症する可能性がありますが、50歳以上になると発症率が上昇し、80歳以上になると3人に1人はこの病気を経験すると言われており、比較的高齢の方に多い病気です。

どんな症状が出るの？

帯状疱疹になると体の片側の一部分が赤くなったり（写真）、ぶつぶつが出た後に痛みを伴う水ぶくれができ、帯状に広がります。発疹が出る前に痛みが出ることもあります。

水ぶくれは、やがて破れ、かさぶたになって治っていきます。発疹が治った後も、ビリビリ、ズキズキした痛みや、服が擦れても痛みを感じるような知覚過敏の状態になったりすることがあります。これを帯状疱疹後神経痛と言います。

どんな治療をするの？

帯状疱疹の治療には特効薬である抗ヘルペスウイルス薬を使います。抗ヘルペスウイルス薬は原則1日3回、7日間使用します。腎機能の悪い方は、抗ヘルペスウイルス薬の減量が必要になりますので、医師に伝えてください。最近、1日1回の内服で、腎機能による減量の必要のない新薬も出ました。痛みが激しい場合、皮膚の症状が重症の場合、また顔に皮疹が出ているときは入院による治療が必要となることがあります。

写真　脇腹に発生した帯状疱疹

帯状疱疹になってしまったら気をつけることは？

帯状疱疹になってしまったら、病気が治るまでは安静を心がけましょう。処方薬は指示通りに使いましょう。お風呂に入って温めると楽になりますが、発疹のあるときはゴシゴシこすらないようにしましょう。発疹が出ている時期に、水ぼうそうをしたことがないお子さんや、水ぼうそうワクチンを打っていないお子さんと接触すると、水ぼうそうを発症させてしまうことがあるので注意しましょう。

帯状疱疹の予防は？

帯状疱疹は体が弱っている時に出ることが多いので、ならないためには規則正しい生活をして、ストレスを溜めないことが肝心です。

近年、子供の水ぼうそうのワクチンを帯状疱疹予防に使用することが可能になりました。また、より効果の高い帯状疱疹ワクチンも近々使用できるようになる予定です。詳しくはかかりつけ医や当院皮膚科医師にお問い合わせください。

治療を支える栄養ケア：栄養サポートチーム（NST）

NSTチェアマン 森 直治　NST医師 前田 圭介

1 低栄養にご用心

病気の治療中は、食欲が低下したり、運動量が落ちたりして栄養状態が悪くなります。また、病気自体の影響で、体に貯めていたたんぱく質や脂肪がどんどん分解・消費されて、痩せていくこともあります。栄養状態が良い場合，治療効果の向上や治療後の生活機能維持が期待できます。一方で、栄養状態が悪いと治療効果が上がらず、治療を断念する原因となることも少なくありません。病気を抱えている方にとって、栄養管理はとても重要なのです。

2 栄養サポートは多職種チームで

「栄養」の専門家はどういう人？と聞いたら、「栄養士さん」という答えが一番最初に思い浮かびます。その通り、管理栄養士は食事に関する栄養の専門家です。しかし、管理栄養士だけで栄養サポートが完結するわけではありません。「栄養」は，食事だけでなく、運動量や身体機能，病気の種類や状態、本人の性格や今までの生活習慣など多くの要因が関わっています。

そこで、当院では、いろいろな職種の栄養の専門家が一つのチームになり、治療中の患者さんを支える体制をとっています。管理栄養士のほかに、医師・歯科医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師など多くの職種が集まっています。栄養の学会が認定する、「栄養サポートチーム専門療法士」や「認定医」「専門医」「指導医」の資格を多くのメンバーが持っています（写真1）。病棟を回診する時には、腕章を着用してベッドサイドに伺います（写真2、写真3）。

3 栄養スクリーニングと詳細評価

当院では、入院時のデータをもとに、低栄養のリスクがある患者さんを抽出し、栄養サポートチームが、さらに詳しい栄養の評価を実施しています。低栄養の患者さんに対しては、主治医や病棟の看護師と栄養サポートチームが協働し、適切な栄養サポートを行います。

入院患者さんの約4割に、低栄養の危険性があるということがわかっています。治療効果や生活の質を向上させるために、病気の治療と並行して、栄養状態を適切に保つことが重要です。当院は、全国有数の栄養サポート体制で、患者さんの栄養状態の向上に努めます。

写真1　栄養サポートチームメンバー（一部）、森チェアマン（右から3人目）、前田医師（右から2人目）

写真2　栄養サポートチームの腕章

写真3　病棟回診の様子

地域包括ケアシステムの構築に取り組んでいます

1 地域包括ケアシステムとは

現在、我が国では、団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、地域包括ケアシステムの構築に取り組んでいます。
地域包括ケアシステムとは、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供されるシステムであり（図1）、各市町村の地方行政単位で地域別に異なる高齢者のニーズと医療・介護の実情を正確に把握し、豊かな老後生活に向けて、住民や医療・介護施設などが連携・協議し、高齢者を支援していくものです。

2 医療連携センター

当院は、この地域包括ケアシステムにおいて高度急性期医療の分野を担っており、医療連携センターの各部署（図2）が、

1. 急性期患者さんの地域の医療機関からの紹介受入、症状の安定した患者さんの逆紹介
2. 看護師、社会福祉士、精神保健福祉士が退院調整員として、入院決定後早期からの退院支援

を行っており、地域の医療機関、回復期医療の病院、在宅医療・介護等を担う機関と協力して、この地域の住民の方々が少しでも安心して生活が送れるよう努力しています。

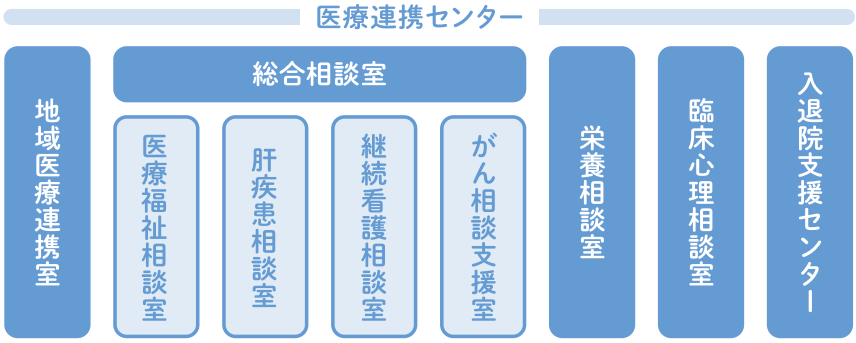


図2　医療連携センター

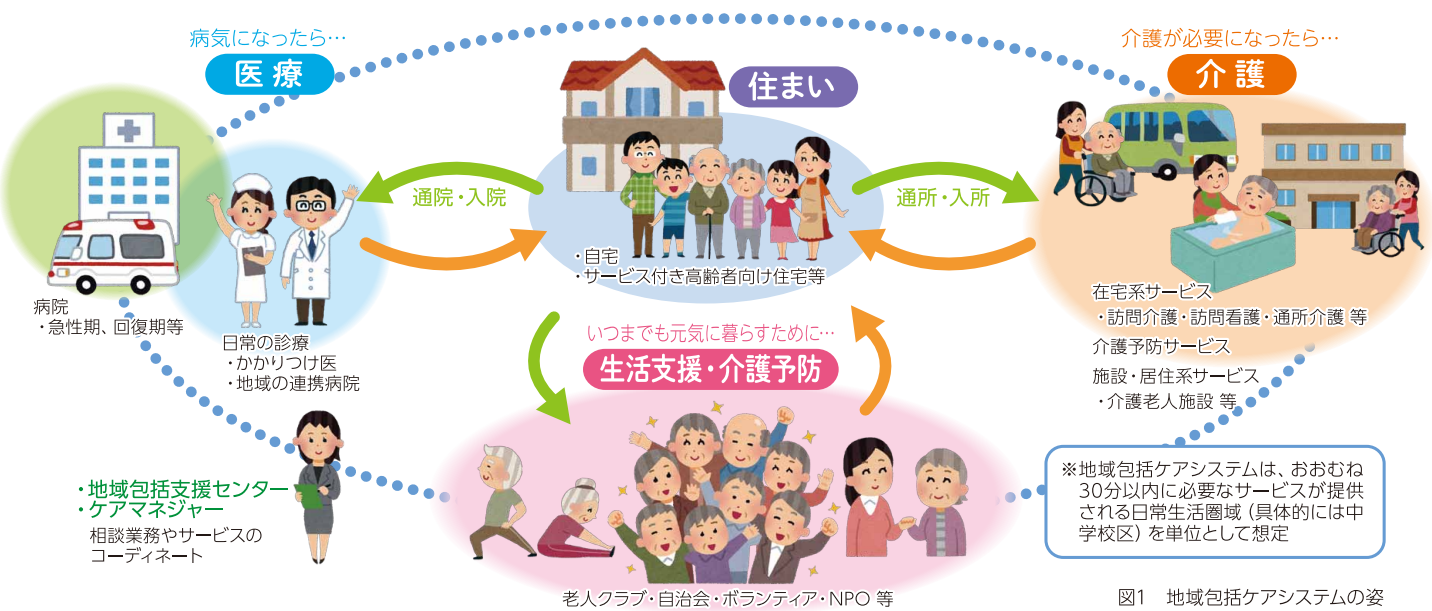


図1　地域包括ケアシステムの姿

◎患者さんへのお願い

1. 地域の医療機関からのスムーズな患者さん受け入れのため、紹介状による受診をお願いします。
2. 予約入院の患者さんには、入院前から退院を見込んだ支援を行いますので、ご協力をお願いします。

Pick Up : 1

診療科・部署紹介

循環器内科

高齢化社会において需要の増加する循環器疾患に対して、高度な先進医療を提供する循環器内科

循環器内科部長 **天野 哲也**

循環器内科では虚血性心疾患・不整脈・心不全・高血圧症等の循環器疾患全般にわたる治療を行っています。心臓疾患には緊急性を要するものが多いことから、24時間いつでも適切な医療を提供できる体制を整えています。また短期入院・早期社会復帰のポリシーでチーム医療に取り組んでいます。
当科における取り組みについてご紹介します。

①狭心症を見つける新たな診断法：FFRCT

心臓に血液を送る冠動脈が動脈硬化によって細くなる狭心症の診断はこれまで心臓カテーテル検査が絶対的な診断方法でした。しかし、最近ではFFRCTという検査法が新しく開発され、簡単に狭心症の診断をすることが可能になってきました。

FFRCTではCTで得られた情報を解析して、冠動脈を3Dで表示し血流量をカラーで表示します（写真1）。狭心症の重症度や治療の必要性などの検査精度が高いだけでなく、患者さんの負担も軽いため今後広く普及していくことが期待されています。当院は治験施設として早くからFFRCTを導入しており、症例数において世界第7位の実績があります。

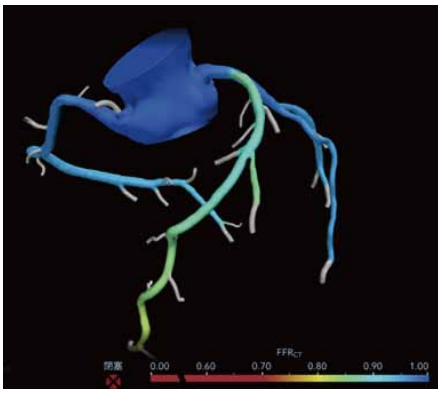


写真1　狭心症の疑いでFFRCTを施行した一例
赤く示される血管はなく、冠動脈の血流量は正常
狭心症の可能性は低いと判断されました

②カテーテルアブレーションによる不整脈治療

不整脈の中で最も多く認められるのが心房細動です。人口の高齢化に伴い心房細動の症例数は増加傾向です。心房細動を放置することにより脳梗塞や心不全を合併する可能性が高くなるため、最近ではカテーテルアブレーションによる治療を行うことが一般的になりつつあります（写真2）。当院ではバルーンを使用したアブレーションなど、最新の不整脈治療を受けて頂ける体制を整えています。

写真2　血管内治療センターでカテーテルアブレーションを実施中

③入院早期からのきめ細かい心臓リハビリ

当院では新規・再入院含め年間250例余りの心不全患者さんに入院加療を行っています。入院早期からきめ細かい心臓リハビリをすべての心疾患患者さんに行うことにより、自律した活動性を損なわずに退院できるよう最大限留意しながら診療にあたっています。また通院中の患者さんに対しても心臓リハビリが行えるような診療体制をとっております（写真3）。

写真3　エルゴメーターを使った有酸素運動

④経カテーテル大動脈弁置換術（TAVI）

経カテーテル大動脈弁置換術（TAVI）は重症の大動脈弁狭窄症に対して近年施行されるようになりました。当院も施設認定を受け、これまで6例施行し、全例良好な経過をたどっています。

当科では循環器疾患全般への治療を目的としてスタッフのチームワークを確立し、患者さんの状態にあった適切な治療を提供できることを目指しています。
ご不明な点などございましたら、遠慮なくお尋ねください。

Pick Up : 2

診療科・部署紹介

中央臨床検査部

国際規格に基づく検査結果を提供する中央臨床検査部

中央臨床検査部技師長　谷　浩也

①中央臨床検査部の役割

医師が病気を診断・治療するためには、患者さんの体が発する様々なサインを確認することが極めて重要になります。そして、そのサインを確認するために行われるのが臨床検査であり、それを実施する部門が中央臨床検査部（以下、検査部）です。

検査部で行われる臨床検査は、検体検査と生理機能検査の2つに大きく分けられます。検体検査は、患者さんから採取した血液・尿・便等を用いてその中の様々な成分を分析するものです。これに対して、生理機能検査は、患者さんの心臓や脳の働きを電気的な波形として表わしたり、体内の臓器を超音波で観察する等の検査をするものです。代表的な検査としては、心電図・脳波・呼吸機能検査・神経伝導速度・超音波検査等があります。我々は、これらの検査を患者さんに優しく、また、迅速で質の高い検査結果を臨床の場に提供することを心がけ、日々業務を行っています（写真1、写真2）。

写真1　生理機能検査センター受付

②検査関連部門（検査部・輸血部・病院病理部・感染制御部）がISO認定を取得しました

この度、検査部・輸血部・病院病理部・感染制御部（以下、検査関連部門）が、2018年1月付でISO 15189の認定を取得しました（写真3）。これは検査関連部門がISO「国際標準化機構（International Organization for Standardization）」から、国際的に「検査室や検査結果の質を管理するために必要な仕組みと管理方法」ならびに「正しい検査結果を出すために必要な能力や方法を有すること」が証明されたことになります。つまり、当院の検査関連部門が、国際標準に適合した検査室であるとのお墨付きを得たわけです。これにより当院の検査結果は、国際規格に基づいた質と精度が担保されたものとなり、これまでにも増して患者さんへ質の高い検査結果を提供できるようになったものと自負しております。

また、ISOからは、継続的な改善を要求されますので、これからも患者さんに満足いただける検査室となるよう精進していく所存です。

写真2　検体検査室

③疑問な点はお尋ねください

検査部では、血液検査や尿検査の項目名称や臨床的意義、基準範囲等について、患者さんの疑問にお答えしています。

「検査結果を受け取ったけれど、専門表記ばっかりで意味が分からない」、「この検査で何がわかるの？」など検体検査について質問・疑問等がありましたら検査相談コーナー（中央棟2階26番　採血・採尿センター内）へお越しください。臨床検査の専門家である医師又は臨床検査技師が丁寧にお答えいたします。

写真3　認定証とポスター

＼ よろしくお願いします！！ ／

新人奮闘記

目指せ一人前!!
笑顔あふれる病理部で

病院病理部（平成 28 年度入職）
坪井 智子

病院病理部の仕事

みなさん、病理検査をご存知ですか。知らない方も多いと思いますが、実はドラマにもなった事があるんです。

病理検査には、大きく分けて組織検査と細胞診検査があります。病理組織検査は、患者さんから採取した組織を様々な過程を経て、顕微鏡で観察するための標本を作製します。その標本を病理医が観察し、診断します。細胞診検査は、尿や喀痰、子宮膣部、内膜などから直接採取された細胞や、乳腺、甲状腺などから穿刺吸引した細胞を標本にし、顕微鏡で悪い細胞がないかをチェックします。

細胞診検査は、臨床検査技師の中でも「細胞検査士」という認定資格を持った技師が行い、当院の病院病理部では全員が取得しています。これらの病理検査で悪い細胞が確認されてはじめて、患者さんに手術や化学療法が行われます。

苦労したこと

細胞診検査について、私は大学在学中に細胞検査士の資格を取得し入職しましたが、大学で学んできたようにはいかず、自分の未熟さを痛感しました。

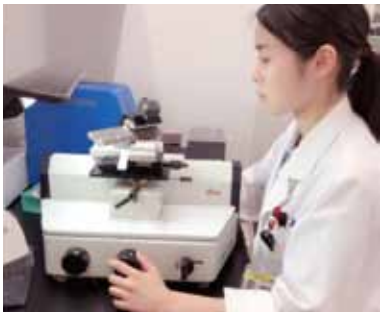
病理組織検査については、初めての事が多く毎日不安しかありませんでした。標本作製には高い技術が必要なので、スーパーで購入した食肉を患者さんの組織に見立て、業務後に毎日標本作製の練習に励みました。先輩方と同じようにやっているつもりなのに、なんで出来ないんだろうと悩むことも多く、時には涙を流すこともありました。しかし、先輩方は嫌な顔をせず、毎日遅くまで私の練習に付き合ってくださり、わかりやすくアドバイスをくれました。本当にいい先輩方に恵まれたと感謝しています。

嬉しかったこと

1年目は失敗ばかりでめげそうになったこともありましたが、2年目に入ってからは、任せてもらえる業務が増え、ようやく病理部の一員になれたような気がして嬉しかったです。人数が少ない分、みんなとコミュニケーションがとりやすく、アットホームな感じで毎日楽しく仕事が出来ています。

また最近になり、自分が作製した標本を病理診断科都築部長をはじめとする病理医の先生方に褒めて頂く機会が増え、とても嬉しかったです。

病理医が的確な診断をするためには、まずは良い標本を作製することが不可欠なので、頑張って練習してきてよかったと思いました。これからも、より良い標本作製や正確な細胞診検査、まだ習得していない業務が出来るよう、日々成長していきたいと思います。また、技師としてのみならず、人間的にも成長していきたいです。



栄養部
Nutrition

ご存知ですか？

自分の適正体重と必要エネルギー量

自分に合った栄養を摂りましょう

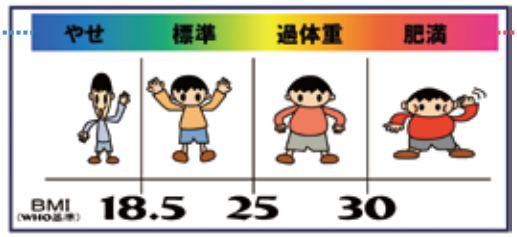
過食や運動不足による「肥満」や「メタボリックシンドローム」がある一方で、高齢、病気等による食欲不振、過度なダイエットなどによる「やせ」も問題となっています。生涯健康に過ごすためには、自分の適切な体重を知って、体格や活動量に合ったバランスの良い食事を摂ることが大切です。一般的にBMIが22の時の体重が標準体重で、最も病気になりにくい状態であるとされています。25以上は肥満と判定され、脂質異常症や糖尿病、高血圧などの生活習慣病のリスクが2倍以上になると言われています。また、18.5未満は痩せと判定され、筋力の低下から寝たきりにつながる危険があります。

肥満も痩せすぎも良くありません。ご自身が１日に必要とするエネルギー量を知り、図1のエネルギー量を参考に、主食、たんぱく質を多く含むおかず、野菜中心のおかずをそろえて「1日3食バランス良く」食べることを心がけましょう。

☑ 自分の体格（BMI）をチェックしよう
（基準値：標準＝18.5～25.0）

現在の体重(kg) ÷ 身長(m) ÷ 身長(m) ＝ BMI

BMI＜18.5 やせ
栄養不足、筋力低下、寝たきりにつながる



BMI≧25.0 肥満
糖尿病、脂質異常症、メタボリックシンドロームにつながる

☑ 自分の標準体重をチェックしよう

身長(m) × 身長(m) × 22 ＝ 標準体重(kg)

☑ １日に必要なエネルギーをチェックしよう

標準体重(kg) × 身体活動量※(25～35) ＝ 必要エネルギー量(kcal)

※身体活動量… BMI高めの人（減量したい）、職業がデスクワークの人など⇒25～30
BMIが低めの人（体重を増やしたい）、立ち仕事が多い人など⇒30～35

図1

※栄養量は大きさやメーカー等によって差があるので、あくまでも参考値です。

医療安全推進週間イベント

厚生労働省は、2011年から「患者の安全を守るための医療関係者の共同行動(PSA)」と命名し、総合的な医療安全対策を強力に推進しています。その取組の一環として、11月25日(いい医療に向かってGO)を含む1週間を「医療安全推進週間」と定め、医療関係者の意識向上、国民の理解や認識を深めるため様々な事業を実施しています。

当院でもこれにちなんで「患者ファースト」～わかるまで聞こう、話そう、伝えよう～　をテーマに、2017年11月16日（木）から11月22日（水）（土日を除く）まで、中央棟2階の共有待合スペースに特設ブースを設置してイベントを開催しました。外来・入院患者さん、お見舞いに来られたご家族・友人など多くの方にお越しいただきました。

患者の医療参加

患者誤認防止の啓発のため、「君の名は？」をテーマに、患者さんと医療者の協同によるフルネーム確認や、確認を行う場面の一例、リストバンドやNAVITなど患者確認を行う際に必要なアイテム等を掲示しました。また、治療や検査について、不安や疑問があった場合には、声に出してわかるまで尋ねたり、伝えたりすることの大切さを、リーフレットの配布など様々なかたちにより、安全な医療のために患者さんの医療参加を呼び掛けました。

医療安全推進週間イベントの様子

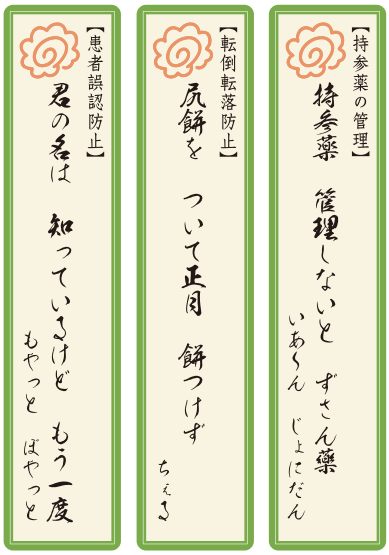
相談ブース

誤嚥性肺炎の予防とケアに関することや、栄養・嚥下サポート食、交互嚥下などに関するポスター掲示とリーフレットの配布を行ったほか、薬剤師や管理栄養士、言語聴覚士、看護師が常駐して、来院者からの直接相談も受け付けました。直に相談出来る機会ということで、今回のテーマ以外のお薬や栄養相談をされる方もあり、とても関心の高さがうかがわれました。

配布したリーフレット

医療安全の川柳

医療安全に関する川柳を当院職員から募集しました。48句の作品応募があり、イベント開催中に展示しました。その中から病院長が優秀作品として、3点を選定しました。（病院長賞）



グッズ紹介

薬の飲み忘れ、飲み過ぎ、飲み間違えを防止する服薬支援機器、口腔ケア、誤嚥防止や安全対策グッズの紹介、誤嚥を防ぐための超低床介護用ベッドを展示しました。

また、持参薬に関することや、誤嚥予防と身体機能向上のための体操のDVDを放映し、特設ブース内には手作り風船などを飾り、終始和やかなイベントとなりました。

今後も医療安全推進週間にちなんでイベントを開催し、さらに患者安全の確保・推進のためになるイベントを目指していきます。

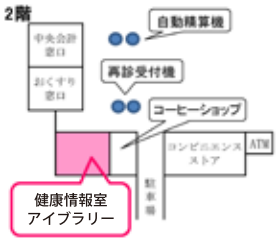
健康情報室 アイブラリー

健康情報室アイブラリーのご案内

健康増進や病気に関する本、DVD、インターネット検索端末などを、静かな環境でご利用いただくことができます。また、年に数回、当院の医師や認定看護師によるミニセミナーも開催しています。ミニセミナーの開催日等については、当院ホームページや長久手市の市報「広報ながくて」でお知らせしていますので、気軽にご参加ください。

医療を受けられる方や地域の皆さんが、不安や心配を少なくして治療に臨んでいただければ、と願っております。わからないことがありましたら、ぜひ職員にお声かけください。

- 開室時間：平日9：00～16：00
- 場所：2階コーヒーショップ横



医師事務作業補助

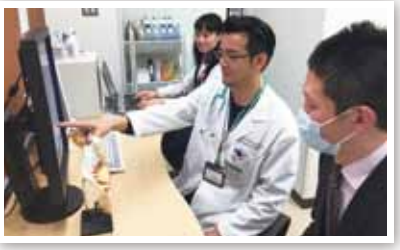
診察のサポート

医師事務作業補助者とは、カルテの代行入力、文書作成補助、予約管理など医師の事務作業をサポートする職種です。

厚生労働省は、医師事務作業者を配置して、医師の事務業務軽減及び患者さんへのサービス向上を図るよう方針を打ち出しております。

当院においても、医師事務作業補助者を診察室に配置することで医療の質の向上、待ち時間の短縮を図り、診察のサポートを行っております。

患者さんが安心して診療が受けられるように支援させていただきます。



ボランティアセンター

採尿バッグカバーの製作

「入院していた時、お見舞いに来て下さった方に、自分の排泄物を見られるのが嫌だった」という入院経験があるボランティアさんの声から、何かいいものは作れないかな？と皆で一緒に考え、一昨年より採尿バッグカバーを作っています。生地は、再利用したものです。採尿バッグカバーは、ご希望の患者さんへ看護師からお渡しをし、汚れたら廃棄しています。

作製にあたり工夫した点は、普段は、排泄物が見えないようになっていますが、簡単に排泄物の確認が出来ることと、縫製は、糸のみとし、ホチキス等の医療事故に繋がる材料は使用していない事です。

簡単に排泄物の確認ができます

ボランティアセンター（1階東エスカレーター横）は、毎日あたたかい心でいっぱいです。是非、お立ち寄りください。

お問い合わせ先　病院管理課
ボランティア担当

書籍発行

愛知医科大学病院の最新医療本を発行

2018年1月31日（水）付で、当院の本「元気ホスピタル―最善の医療をめざして 愛知医科大学病院の最新医療」を発行しました。

当院の専門医・看護師・医療スタッフが、最新治療や検査等についてわかりやすく解説しています。「がん関連」「トピックス（特徴ある診療）」「Q&Aでわかる最新治療ー安心で最良の医療を提供」の3部構成で、87テーマを紹介しています。

2月13日（火）には，マスコミ向けの発行会見を行いました。（写真）

本書により、当院の行う最新の医療をたくさんの方々に知っていただき、病気の予防や治療の一助になれば幸いです。この本は、一部の書店や本学・当院の売店で販売しています。また、当院中央棟2階にある健康情報室 アイブラリー（患者図書室）でご覧いただけます。

愛知医科大学病院の理念と基本方針

理　念

特定機能病院として、診療・教育・研究のすべての領域において、医療を基盤とした社会貢献を目指す

- 社会の信頼に応えうる医療機関
- 人間性豊かな医療人を育成できる教育機関
- 新しい医療の開発と社会還元が可能な研究機関

基本方針

- 人間性を尊重した患者中心の医療の提供
- 信頼関係を大切にした安全で良質な医療の実践
- 豊かな人間性と優れた医療技術を持った医療人の育成
- 先進的医療技術の開発・導入・実践の推進
- 災害・救急医療への積極的な取り組み
- 地域医療連携の推進及び地域医療への貢献

無線LAN (Free Wi-Fi) サービス開始！

2018年2月1日（木）から診療の待ち時間等を有効に活用していただくため、無線LAN（Wi-Fi）サービスを開始しました。Wi-Fi接続後、ブラウザを開いて利用規約同意画面をお読みいただき、同意してご利用ください。

ご利用時間：午前8時から午後9時まで。
ご利用場所：外来・入院エリア（一部を除く），立石プラザ等

FREE Wi-Fi

SSID：AMU-FREE

編集後記

愛知医科大学新病院建設に始まった、キャンパス再整備プロジェクトは、ドクターヘリ格納庫の完成をもって終了いたします。当院は地域医療の要であることはもちろん、高度で先進的な医療をさらに発展させるべくこれからも努力を継続してまいります。

先ごろ発刊されました、「愛知医科大学病院の最新医療本」とともに、本誌も当院の最新情報をお伝えするとともに、皆様に親しみを感じていただければ幸いです。お手に取ってご覧になりご意見やご感想を頂ければ幸いです。

病院広報委員会広報誌部会会長 春日井邦夫

■2018年3月発行　■編集・発行／愛知医科大学病院　病院広報委員会　TEL:0561-62-3311　FAX:0561-63-3208

愛知医大病院　検索